

古高取通信

令和2年10月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



目次	
古高取の魅力を伝える	2
2020年度定期総会	4
活動の記録	4
なんでも掲示板	5

自然との共生

先日放映された「アフアンの森よ永遠に」Cwニコルからのメッセーj」テレビ番組を観ました。

荒廃した里山の再生にかけたニコルさんの姿を生き生きと描写していました。森やそこに住む動植物、そして住民とのかかわりの大切さを学びました。

特に津波で流された小学校の建設にかわり木造で造らないなら参加しないとの強い意志に感動しました。

ニコルさんのような力がなくても、それぞれの立場で出来ることを頑張ることで、少しずつ変わっていくのでしょね。

今年はコロナ禍で日常生活が変わって閉塞感の中で毎日を送っています。

ちぐはぐな感じの政府のコロナ対策に加え、マスコミの煽る恐怖に惑わされていませんか。

自粛警察の一翼に加担するような言動に気を付けたいと思っています。

コロナ終息後の生活はどう変わるのでしょか。コロナとの戦いでなくコロナとの共生する生活を築いていきたいものです。

隅田 知明

古高取の魅力伝える

直方市歴史民俗資料館の

設置について

古高取を伝える会

会長 隅田 知明

平成26年より歴史文化財関係者4団体の代表者で歴史民俗資料館の設置について協議を重ねてきました。

直方郷土研究会
歴史ボランティアとおれんじ
古高取を伝える会
筑豊工業高校所蔵文化財を伝える会

今までも、行政は「資料館」の必要性については認めながら優先順位が低いのか財政上の理由から先送りしてきたのが現状です。

故郷を誇れるまちづくりに、資料館は絶対に欠かせない施設だとわたしたちは考えています。

以下に記するのは、今までの議論を踏まえ、昨年十月に纏めた概要です。

皆さんの意見を聞きながら今後の方針を決めたいと思っています。

令和元年10月10日

直方市歴史民俗資料館(仮称)の設置を要望する会

直方市歴史民俗資料館(仮称)の設置要望について

【1. 歴史民俗資料館(仮称)に関するこれまでの設置要望活動の経緯】

(1) 昭和時代より直方郷土研究会からの設置要望活動

・昭和52年から58年にかけて三度にわたり市執行部への陳情および市議会への請願を行い、議会では満場一致で採択され、執行部もその必要性を認識されて歴史民俗資料館(仮称。以下資料館と表記します)の基本設計も出来たが、財政難のために立消えとなった。

(2) 旧産業技術総合研究所九州センター直方サイト跡地、を歴史資料館として活用する要望
地光会

(3) 平成時代より歴史文化財関係4団体の代表者による設置要望

・平成26年に副市長、教育長、市議会議長と個別に面談して資料館の設置について要望した。

・当時、直方市で資料館の候補地として検討されていた殿町の旧篠原邸(旧谷尾美術館収蔵庫)については実現せず。

【2. 資料館設置の必要性】

(1) 市内の文化財の集中展示の必要性

・文化財の展示および保管の現状は次の通り市内各所に分散しており、集中して直方の貴重な文化財を学ぶことができない。

① 中央公民館2階郷土資料室

↓ 古代から江戸時代までの文化財(高取焼出土品を含む)を展示

② アートスペース谷尾の展示コーナー

↓ 高取焼出土品のみを展示

③ 石炭記念館

↓ 筑豊石炭鉱業組合関係の文化財(直方市に移管)を展示

④ 筑豊高校資料室

↓ 筑豊石炭鉱業組合が経営した旧筑豊鉱山学校および筑豊工業高校所蔵文化財の一部を九州歴史資料館(福岡県立・小郡市)の委託を受けて日曜日のみ展示

⑤ 市立図書館

↓ 市史編纂当時収集した古文書など郷土史関係資料を保管

↓ 上野家から寄贈された筑豊文庫の図書を展示、資料を保管。7月21日から資料室を公開。資料は個人情報保護のため研究者のみ対応。

⑥ 九州歴史資料館

↓ 高取焼出土品、筑豊石炭鉱業組合関係の文化財(福岡県に移管)など膨大な量の直方の文化財を保管

⑦ 市立体育館の地下倉庫

↓ 発掘された文化財

⑧ 旧筑豊高校(植木)の教室

↓ 古農具などの大型民俗資料があるが、保管環境としては問題があり、破却の危険がある。

⑨ これまでも個人が収集された貴重な蔵書や文化財が直方市内に受入れ可能な保管施設がないため、大学など市外に流出する残念な事態が発生している。

【3. 資料館の施設構想】

① 展示室…常設展示の他、企画展示の開催も対応可能な構造とする。

② 研修室…資料館来館者への説明やミニ歴史講座の会場など多目的に使用し、PCプロジェクターやDVD上映設備など視聴覚設備を整える。

③ 書庫・図書室…貴重図書の閉鎖書庫と開架式の参考図書室を設置する。

④ 収蔵庫…環境設備を整えて蔵書や文化財の保管を行い、市民からの資料等の寄贈受入れにも対応可能な容量を確保する。

⑤ 事務室…文化財担当の学芸員が常駐する。

⑥ 販売コーナー…直方の文化財に関する資料配布、地場産品の販売を行う。

【4. 資料館の展示物構想】

写真パネル、説明文、所在地地図および展示可能な出土品や古絵図などを展示する。展示物の分類は次の3分野とする。

① 高取焼（永満寺宅間窯跡および内ヶ磯窯跡）
・直方の貴重な宝であり、高取焼関係の展示（出土品、窯跡模型等）を一個所で見学できるようにする。

② 直方の歴史（古代から昭和まで）
・福岡県および直方市指定文化財を中心にして、特に直方の特徴である鷹取城跡と直方藩（筑豊地区で唯一）に重点を置く。
・舞踊や祭礼などの無形民俗文化財についてはDVD映像で紹介する。
・俳句や小説など直方ゆかりの作品についても展示紹介する。

③ 炭鉱
・国指定史跡となった旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所（現直方市石炭記念館本館）および救護練習所模擬坑道の他、炭鉱殉職者慰霊碑・炭鉱主関係遺跡・石炭輸送（川船、鉄道）遺跡その他を展示する。

・筑豊石炭鉱業組合から筑豊鉱山学校に寄贈された組合の資料教科書・教材・鉱物標本など貴重な文化財や明治大正時代の多数の炭鉱写真、学校生活や組合創立記念式典等の映像（DVD化）を展示する。

・筑豊高校資料室からの展示品移管については九州歴史資料館と、筑豊文庫の取扱いについては市立図書館と協議調整する。

【5. 資料館設置による効果】

(1) 郷土史学習への効果
・文化財の一個所での展示と、PCプロジェクターやDVD上映設備などの視聴覚機能を完備した研修室の設置により、小学生など内外の来館者が有効に直方の歴史を学習することが可能になる。

(2) 観光の拠点としておよび案内人材育成の効果
・直方市観光物産振興協会などが企画する文化観光コース企画の拠点として取りあげることによって、「歴史と文化のまち直方」のイメージアップが期待できる。

・また、他の博物館、資料館が既の実施しているように案内ボランティアを育成し学芸員や外部講師による研修を受けて、館内の案内

のみならず市内各地の多くの文化財を現地で案内が可能なメンバーを育成することができ、特に市内の中老年の人材活用に貢献する。高校生の校外活動拠点としても考えられる。

(3) 全国的な研究拠点としての効果
・高取焼に対する関心は高く近年実施された講演会には市外からも多数の参加者が訪れている。また近代化遺産への注目も高まり、石炭記念館には全国から大学院生・大学生を含む研究者が多数訪れている。

・高取焼研究の拠点および筑豊石炭鉱業組合関係資料・筑豊文庫資料などの多角的炭鉱研究の拠点として注目され、「超一級文化財のまち直方」のイメージアップが期待できる。

(4) 地場産品PRの場としての効果
・直方市観光物産振興協会とタイアップして館内に地場産品（陶芸・菓子・工芸品など）の販売コーナーを設置し地場産品のPRの拠点とする。

尚、候補地は、現在競売にかけられている、旧産業技術総合研究所九州センター直方サイト跡地が最適と考えています。

2020年度定期総会

●2020年度定期総会

〈令和二年七月三十日(木)〉
場所…直方市中央公民館

二階第一学習室

2020年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため書面表決としました。

結果は次の通り。

- 1 葉書集約数 22枚
- 2 議案
- 1号議案

2019年度 事業経過報告

賛成22 反対0

2号議案 2019年度

決算報告監査報告

賛成22 反対0

3号議案 2020年度

事業計画(案)について

賛成22 反対0

4号議案 2020年度

予算(案)について

賛成22 反対0

3(ご意見・ご要望)

- ・高取焼資料館建設に向けて具体的な取り組みを進めてほしいと思います。

- ・コロナ感染防止、取り組みも大変ですね。頑張ってください。

・年若い中々出席出来ず我が勝手ばかりしております。コロナと共存しながら元気に頑張りましょう。日々ご苦勞様です。

・お疲れ様です。

・総会には中々参加できませんが今後ともよろしくお願ひいたします。

・高年齢の元気に頭が下がります。私も負けないように頑張ります。

・新規会員是非確保で頑張りましょう。

・事業の実施にあたっては、個人プレーではなく会としての取り組みをお願い致します。

活動の記録

●子供焼物教室(焼物部会)

〈令和二年六月〜十月〉
場所…直方市内の小学校

本年度は、一学期・二学期に分散し、例年6月に集中するのを何とか対策をと考えていた矢先のコロナでした。

一学期の三校は、無事終了致しました。

「第一回」

〈令和二年六月二十一日(日)〉

場所…直方東小学校

「第二回」

〈令和二年七月六日(月)〉

場所…直方西小学校

「第三回」

〈令和二年七月十日(金)〉

場所…直方南小学校



子供達にとっては、令和2年はすべてのことで忘れることのできない苦しい経験をする事になりました。

この中、子供達が楽しみにしている陶芸教室を実施でき私達も喜んでいきます。

三学期、マイ茶碗でお茶会ができるようコロナの終息を願うばかりです。

二学期の予定は、次の通りです。

「第四回」

〈令和二年九月四日(金)〉

場所…下境小学校

「第五回」

〈令和二年九月十八日(金)〉

場所…上頓野小学校

「第六回」

〈令和二年九月二十五日(金)〉

場所…新入小学校

「第七回」

〈令和二年十月十三日(火)〉

場所…植木小学校

「第八回」

〈令和二年十月二十日(火)〉

場所…中泉小学校

「第九回」

〈令和二年十一月四日(水)〉

場所…直方北小学校

「第十回」

〈令和二年十一月二十四日(火)〉

場所…福地小学校

「第十一回」

〈令和三年一月十四日(木)〉

場所…感田小学校

中止となりました「高取焼大茶会」は、令和3年4月から11月までは今のところ未定です。

昨年度同様、マイ茶碗作りも実施したいと考えていますが、これもコロナ次第です。

●高取焼基礎研修講座(学習部会) 〈令和二年度の日程〉

場所…えみくる・直方市中央公民館

令和二年度の高取焼基礎研修講座の日程と内容は、次の通りです。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、来年二月に九州陶磁資料館館長をお招きして開催予定だっ

た「まとめ講演」と、三月の現地視察(有田地区窯元巡り)は、残念ながら中止と致しました。ご理解の程何卒宜しくお願い致します。

「第一回」

〈令和二年十月十七日(土)〉

十時三十分～十二時

場所…えみくる

テーマ…「喫茶と人物誌」

「第二回」

〈令和二年十一月二十一日(土)〉

十時三十分～十二時

場所…えみくる

テーマ…「喫茶のはじまり」

「第三回」

〈令和三年一月十六日(土)〉

十時三十分～十二時

場所…えみくる

テーマ…「草創期の茶の湯」



なんでも掲示板

●金剛山もとどり保全協議会
(あじさい園)

〈令和二年六月～八月〉

場所…金剛山もとどり広場



このまま永遠に夏が続くのではと思うほどの暑さですが、気がつけば夜明けは少しずつ遅くなり、赤トンボは舞、秋の虫の音、緑の中に稲穂が風にゆれていきます。朝の来ない夜はない秋の来ない夏はない、

里山も7月23日に当会理事も参加していただきアジサイの花摘みを行いました。

その後より猛暑と日照りが続いています。植物のエネルギーがごいです。

来年に向けての新しい芽吹きです。

来年はコロナが終息し皆さんがマスクなしで、あじさい園に来ていただけることを祈りつつ里山の

秋を迎えたいと思います。

末松登志子

長月の句

鷹取宗恵

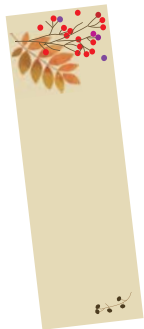
節季は処暑―白露―秋分と進んでいきます。

俳句は季節のうたです。朝日歌壇より次の句を拾いました。作者は無記とします。

- ① 少しだけ 出でし意欲や 秋は来ぬ
- ② 石垣の 石のひとつに 虫の声
- ③ 灯を消して 人間の闇 虫の闇
- ④ 澄む水に 澱む心を 映しおり
- ⑤ 賑やかさが 静かさとあり 虫月夜
- ⑥ 母あらば 畑より 戻る 頃の月
- ⑦ 大根蒔く 明日が 昨日になる 速さ
- ⑧ 運不運 菜を間引きつつ 思い けり
- ⑨ 十五夜も 十六夜も 母 寝待月
- ⑩ 後の月 長寿を 嘆く 愚か者
- ⑪ 満ちゆくも 欠かるも 有情 月の夜

次頁につづく

- ⑫ 夫は九州 吾は小樽の 月仰ぐ
- ⑬ 出席と 書いて忘れて 敬老日
- ⑭ 年齢を 干支で答える 敬老日
- ⑮ 和を以つて 疲れ果てたる 敬老日
- ⑯ 敬老日 杖より低く 祖母来る
- ⑰ 敬老日 修羅場くぐりし 顔ばかり
- ⑱ 山頭火 忌ただ歩くのみ 仕事なし
- ⑲ 蚊を打つて その手を合わす 秋彼岸
- ⑳ 括らずに 萩は意のまま 風のまま
- ㉑ 旬をはじめ 美しき世に 居るを知る



窯跡巡りに寄せて

倉田 豊子

コロナ禍で有田窯元巡りが延期になり、とても残念です。焼き物の里を見て歩くことをとても楽し



みにしていました。特に若いころはブームにのつて、ただ歩き回るばかりでしたが。

古高取研修散策に参加するうちに、窯跡を見るのが楽しくなりました。いくつか窯元を見学させてもらいました。昔は使っていたという草の生えた登り窯はなぜか郷愁を誘います。現在使っていると、屋根に覆われてすっかり保存されている窯もありました。昔は

何回か焼くと窯を修理しなければならなかったと聞きました。

波佐見焼見学の折り、長さ55mという登り窯の跡があり、窯跡に添って坂を上ってみました。途中休みながら上り、最上部から窯跡の全体を眺めると結構な長さで傾斜に驚きました。ここを炎と煙が駆け上っていった。すごい。

内ヶ磯窯の登り窯も山の斜面にありました。全長46m。半地下式の連房式階段上状登り窯という形式はこの種の窯としては国内最大級とされています。

しかし、私のイメージとしては、写真を通してみる窯跡でしたので大きさは実感できませんでした。しかしながら、波佐見の窯跡の坂を実際の上ってみて、内ヶ磯窯の巨大さを実感することができました。

出会い

森本 裕次

「観光と物産の振興を図ろう」言葉は簡単であるが市民と行政の

意識のずれは大きかった。市民は1年間で4度しか開催されていない会議に苛立ちを覚えていた気がする。

平成21年4月産業振興課異動、その時、隅田会長と初めての出会いであった。福智山ダム所長、築城町助役経験者で気難しいという先入観を注入されていたが一緒にいると妙に居心地がよく、会議での発言一つひとつに説得力があった。それ以降、私は隅田会長の手足となり観光物産振興協会の立ち上げ、観光基本計画作成、直方の宝探し、直方焼きスパ、古高取展の開催に関わった。

古高取を伝える会の皆さんとお会いしたのもこの頃だった。市民と一緒に歩む楽しさ、価値観を伝えて頂いた。以後、私は古高取を伝える会の皆様には逆らうことができなくなった。(泣)



陶芸とは関係ありませんが、福智山ろくの谷間に住んでいた人の面白い話がありますので、ご紹介致します。この様な所に黒田藩のお茶碗を作る大きな窯があったとは、いろいろ想像しています。

「はまぐりと数の子」

昔は福智山や六ヶ岳の谷間の奥に住んでいた人たちは、一生の間に海を見たことのない人も多く、また魚介類は塩物か干物しか食べることができませんでした。塩のしてない生ま物は「ぶえん（無塩物）」と言って珍重しました。

このような山奥の人たちを主人公にして、遠賀川を上下して芦屋や若松の港へ荷物を運んでいた直方や植木の船頭さんたちは、つぎのような笑い話をしていました。

山奥の人が海のみやげとして、はまぐりをもらいました。数日後みやげをやった人が訪れて「先日ははまぐりはどうだったか」と言いますと、もらった人は「あんなまずい物はない。あんまり堅いの歯を痛めてしまった」と顔をし



かめながら言いますので、やった人は驚いて「どのようにして食べたのか」と尋ねますと「海から取れた物なので、いつものように、はらわたを出して残りを食べた」と言いました。

この人はまた海のみやげとして干した数の子をもらいました。前のはまぐりに懲りて、こんどはそのまま煮ましたが堅くて食べません。それではと焼いてみましたがやわらかくならず燃え出しました。とうとう腹を立ててしまい、残りの数の子を家の裏にある竹やぶに捨ててしまいました。

それから数日は雨降りで、雨がやんでその人が裏の竹やぶに行き、ふと見ると捨てた数の子が大きく

ふくれていました。拾い上げてみるとやわらかくなっていますので、おそろおそろ少しかじってみました。するとどうでしょう、なんとも言えない歯ごたえと、今まで味わったことのないおいしさにびっくりしました。そこでその人は数の子がいかにおいしいかを、あちこちの人に話して回りました。

ある日のこと、このうわさを聞いた人が訪れて来て「わたしも数の子をもらったが、とても堅くて食えない。あんなまずい物をおいしく食べるには、なにか秘けつがあるにちがいない。その料理の方法をぜひ教えていただきたい」と頼みました。すると食べたこの人はもったいぶって「それほど頼まれるなら教えましょう。さて、あなたの家の裏に竹やぶがありますか」と言いました。とき。

ちくほうの民話(2015年より)



教員になって初めて高取焼の授業を行いました。

直方に住んでいますが、この直方の地に高取焼の文化があったことに驚きと誇りを感じました。

子ども達も、古高取を伝える会のスタッフのみなさんの話をしっかり聞き、オリジナルの高取焼お抹茶茶碗を作りあげていました。

子ども達の一人が、「私は、高取焼を作ってみて高取焼は人の心を動かす素晴らしい物だと感じました。私たちに教えてくださった古高取を伝える会スタッフの方々のおかげで皆一人一人が個性を生かしながら笑顔になっていました。高取焼は焼き物というだけでなく、私たちの笑顔も作ってくれる素晴らしいものです。」と感想に書いていました。

子どもたちにとって素敵な体験になったと思います。

今回の経験を生かして、高取焼の素晴らしい文化を上頓野小学校の後輩たちに伝えて欲しいと思っています。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

コロナ禍で、自粛の日々、昔のアルバムや文献等の整理に汗を流している中で、古高取通信を読み返していると、「じよんのび」という言葉にああ懐かしいなあと新潟市柏崎市の友の顔が目には浮かぶ。過去の古高取通信と重複することに許しを請いながらあえて「越後には、じよんのびという言葉があつて、のびのび、のんびりの最上級の言葉だよ」と。じよんのびという言葉葉を最初に聞いた時の私は、まだ若く、現職で働いていた時。忙しい、忙しいを連発しながら働いていた時の「じよんのび」に癒された思いが蘇ってきた。

じよんのびの日々、そもそも古高取焼とは何？文化とは何？とあらためて自問しながら、書棚をあさっていると・・・

以下、司馬遼太郎氏の「文化の再構築」から新潟市の北方文化博物館は、豪農の建築のすばらしさを伝える目的で作られた、戦後最大の私立美術館だという。終戦直

後に新潟市の伊藤家を訪れた若き進駐軍将校が、「日本の封建制度は良くないが、それにしても日本の文化は素晴らしい」と。

多くの見学者の中で、若いころにドイツに留学していた東山魁夷画伯がいて、この豪農建築を目にして「ドイツの田舎に古い家のない街は、思い出のない人間と同じである」という諺があるという言葉を残したそう。また、イギリスのロータリークラブの会長は、日本に来て、近代的なホテルに泊まり石油コンビナートや自動車のロボット工場を見せられたが、この伊藤家にやってくる、「自分の考えていた日本に会えた」といったこと。

さらに、古高取通信を読み返していると、子供たちの焼き物教室の思い出、楽しさにあらためて、伝える会の活動の重み、深さに喜びを感じるのうぬぼれだろうか。

昨今の日々、直接顔を合わせることなく、会話ができる一見便利そうな、日常が広がりつつあるが、やはり、まじかにあなたの顔を見ながら、あなたの声を聞きながら手を動かし、歩いて、走れる普通の生活が待ち遠しい。

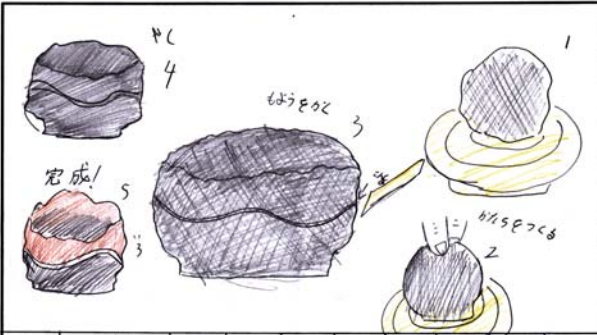
下境小学校六年生担任の下元先生に感想文をいただきました。



高取焼の授業を終えて
6年生の担任になり、初めての高取焼の指導を行いました。直方に伝わり貴重な文化財の価値を、どのように子どもに伝えていくか、体験の大切さを意識しました。社会の歴史と関連させたり、写真や動画を見せたりして、身近に感じてもらおうと取り組みました。自分も、実際に体験してみてもう一度作ることの難しさを、できた時の喜びを実感しました。この経験を、生かしていきたいです。直方市下境小学校6年担任 下元雅世

直方東小学校の六年生から子供焼物教室の感想文をいただきましたので、次頁以降に少しだけ紹介させていただきます。

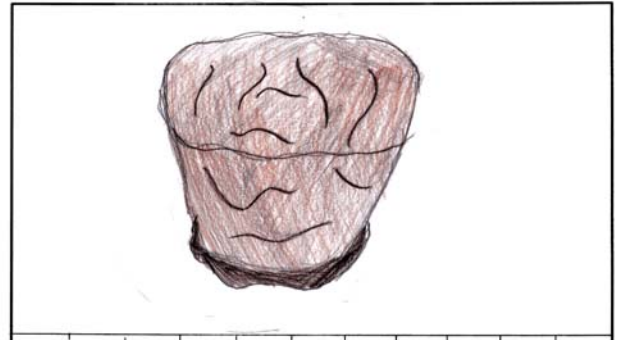
6月21日 日曜日



六年一組 名前 檜垣 瑠李

わたしは、今日高取焼をしました。
高取焼でおわんを作ったのしかた、たて
次に色をぬるてココロのせいでできる
かわかなくなけいじなのしみにまていきま
そとわんを作った高取焼はどうな
のか目で見たいです。
歴史のへんさうをしても、歴史はあな
ことをくあしくしらべてみたいです。

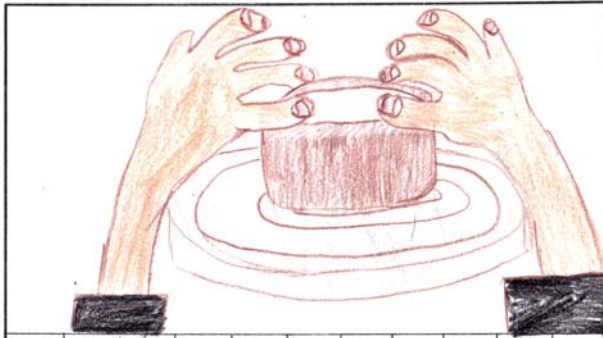
直方東小学校 6年1組 檜垣 瑠李



六年一組 名前 大野 杏樹

古高取を伝える会のみなさん、今日
高取焼を教えてくれてありがとう
とウレシかったです。今日、作って
み、何かを作ることはやっぱり大
事なことだと分かりました。そして、
大亦大なことをいっしょうけんめい
やってくれている人に感謝して大切
にしていきたくて思っています。それ
高取焼について、いろんな人に知
ってほしいと思います。

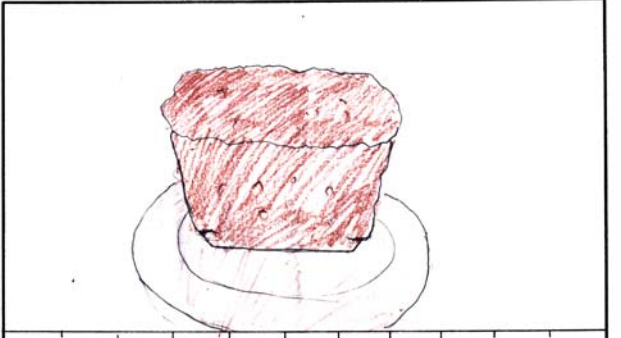
直方東小学校 6年1組 大野 杏樹



6年2組 名前 藤川 友翔

古高取焼のお茶わんを
つくりました。
今日のお茶わんづくりで
思ったことは、お茶わんは土でつくって
いっこと、お茶わんをつくるのはとても
おもしろいことだと思います。あとお茶わん
は最後にはつくっていただきますよ、もち
ろく、いっことをしりました。あと、これからはお茶
わんや皿などはたいせつにしよう、と思
いました。

直方東小学校 6年2組 藤川 友翔



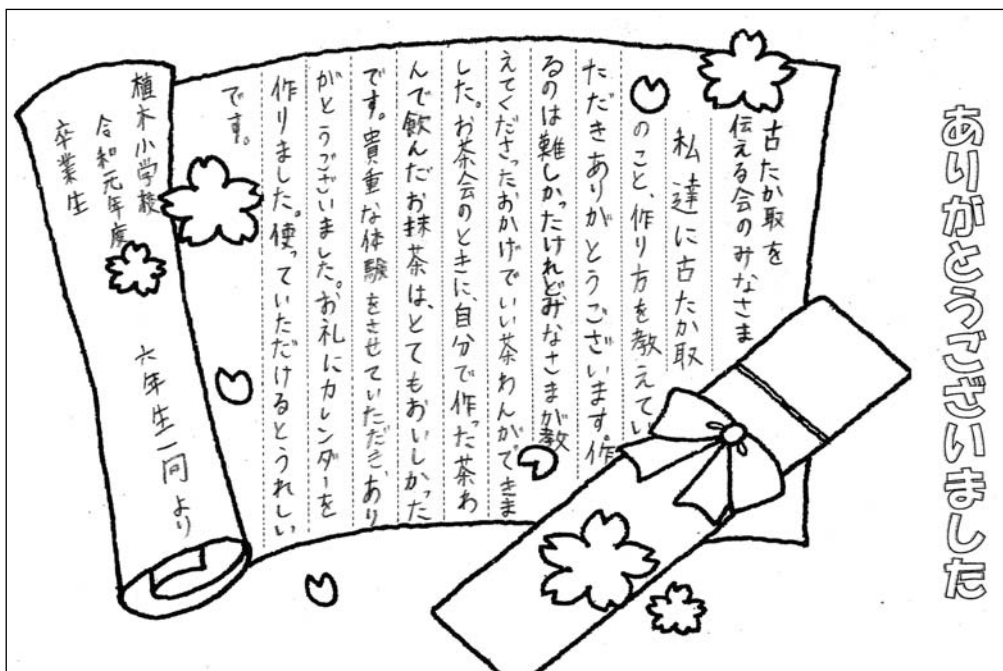
六年三組 名前 大野 陽愛

私は高取焼づくりを通して学ん
だことは歴史は自分たちの身近にあ
ることと学びました。実際に高取焼
づくりをして形を整えることがむずかし
かったり、高台をたかくしたりする
ことがむずかしいことを学びま
した。
これからがんばっていきたくいこと
は、物づくりがむずかしいことを知
ったので物を大切にしていきたいです。

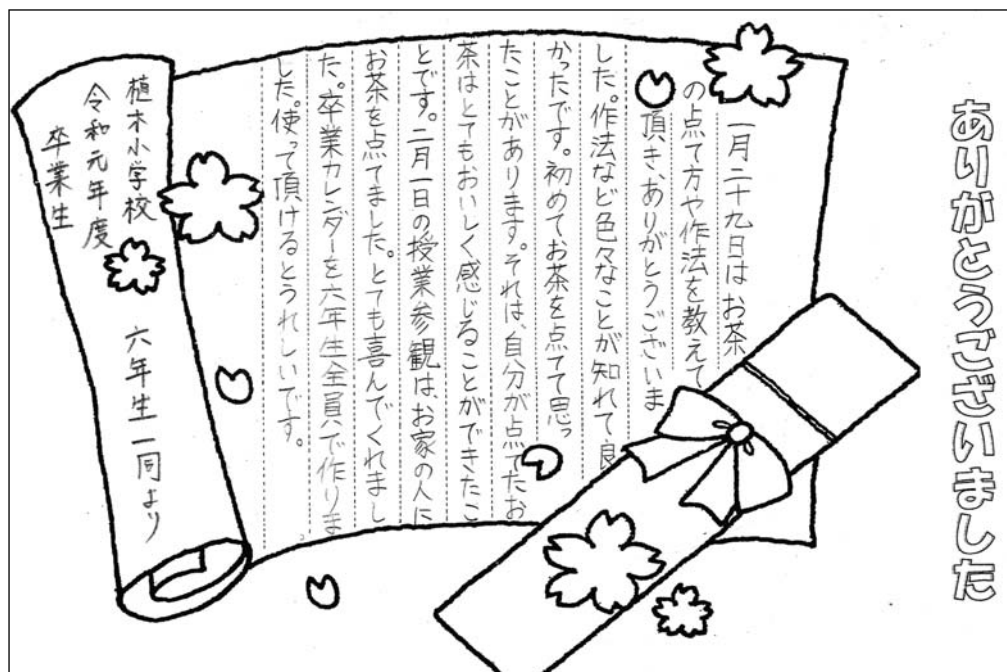
直方東小学校 6年3組 大野 陽愛

植木小学校の六年生から、子供焼物教室とお茶会の感想文をいただきましたので、少しだけ紹介させていただきます。

ありがとうございました



ありがとうございました



「古高取」の魅力を発信する
ためのイベント情報など募集
しています。
事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

今年も様々なことにチャレンジして行こうと考えていた矢先に新型コロナウイルスの流行となつてしまいました。これまでの活動もままならない状況で、もう十月になりました。早くワクチンの開発や治療方法の確立を願うばかりですが、このような状況でも出来ることを考えて何とか活動して行ければと思います。

健康に注意して頑張ります。

「古高取通信」会報・NO 32

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和二年十月五日

〈現在の会員数〉

正会員 五十四名(五十四日)

賛助会員 十八名(二十七日)

団体 一団体(二日)

〈マイ茶碗の数〉

七千九百八十三個

〈事務局〉

〒八二二一〇〇二六

福岡県直方市津田町七十四

TEL 〇九四九(三三)一三二一